

区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	令和3年11月4日（木）	14時30分から16時
会 場	新井区民活動センター	
テ ー マ	脱炭素社会の実現に向けた取組について	
出席者	区 民	計9人
	区 側	区長、企画課長、環境課長
一 時 保 育	無	
手 話 通 訳	無	

区民と区長のタウンミーティング内容

テーマ：脱炭素社会の実現に向けた取組について

会場：新井区民活動センター 日時：令和3年11月4日

区長あいさつ	
区民の意見・質問	区長の回答等
区では10月28日にゼロカーボンシティ宣言を行った。中野区の二酸化炭素の排出の半分は家庭から出るものであり、そこをどうするかがゼロカーボンシティの実現に大きく関わってくる。先般の事業者との会議の中でも、事業者ができることを区と一緒に取組んでいくと話した。できることからやっていく必要があるため、今日は皆様からいろいろなアイデアをいただき、持ち帰って検討したいと考えている。 ゼロカーボン宣言しただけでなく、区民と一体となって取組んでいく必要があると考えているので、今日はよろしく願います。	パネルオーナー制度と基金運用を連動させることについて情報収集を行う。
区の建物の屋根へソーラーパネルを置いてほしい。	ソーラーパネルは家の形状から厳しい場合があり、建設前に啓発する必要がある。小・中学校等の区有施設へのソーラーパネルの設置は既に進めている。
学校の校庭を人工芝から自然芝に替えてほしい。	人工芝は子ども・PTA、近隣住民に支持されているという事情があり、採用されている。 自然芝は養生のため使用できない期間が生じるなど、運用面での課題もあると考えている。
エコプラザ等区民が活動できる場所を設けてほしい。	区内で活動する人が活動しやすいように区がサポートしていくべきと考えていて、団体同士の横のつながりも作っていかないといけないと思っている。具体的には、産業振興センターの機能を北側に移した後、跡施設として予定している公益活動を主体とした複合交流拠点の活用を検討したい。
環境に関する予算が少ないので、増やしてほしい。	ゼロカーボンシティ宣言をしたので、環境施策の予算の充実を検討していきたい。
建築申請の際の環境に関する観点からの規制について条例で定めてほしい。	建築申請の際に区が確認を行うことは、行政の責任であると認識しているので、検討していく。
区民が具体的に何をすれば良いかがわかりづらいので、示してほしい。	区民に何をしてほしいのか具体的なメッセージの出し方をしないといけないと思っている。そのためにはCO ₂ 排出量の分析を緻密に行う必要がある。
脱炭素社会の実現に向けた子供や若者の意識の高まりに大人がついて行っていない。	子供の意識向上より大人の意識向上が遅れているというのはその通りである、大人（特に40代以上）が自らの生活に意識を持つよう啓発して行くべきと考える。
緊急性が伝わってこないため、仕組みづくりから変えていく必要があり、一般に広めていくために強制力のある仕組みをつくったり、損失・利益等生活に直結していくことについて啓発していくべきである。	日本人は環境に関して危機感が足りないと思うので、メリットを伝えたり具体的なPRすることは大切だと考えている。
1年ごと、もしくは半年ごとにロードマップを作り発表していくべきである。環境審議会の回数が少ないので、ゼロカーボンに焦点をあてた審議会を新設し、ロードマップ等について密に話し合い、短期間で進めていく必要がある。	ロードマップの作成は大切であるためやり方を検討していく。審議会のやり方も色々あると思うので、よりよい方法を検討していく。
カーボンインパクトの大きいものについて具体的に伝えていくべき。「みんなでいっしょに自然の電気」について区報上で小さい記事だったので、もっと具体的に啓発してほしい。	区報での啓発の推進を検討していく。
ダイベストメント（資金の引き上げ）が大切。区や都が預ける大きいお金を環境に配慮した銀行に預けることも検討した方がいい。	個人の意識を変えることは大切である。（ダイベストメントなど、個人がまとまっていくことによって大きな力になる）
環境に関して知識のあるコンサルタントはついていないのか。世田谷区には専門のコンサルタントがあり、プログラム作成等に大きく関わっている。	学識経験者に相談したりしてはいるが、今後専門性があるコンサルタント等との連携は重要と考える。